

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和4年度吉城高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年5月25日(水) 14:30~15:30  
\* 15:35~学校設定科目「地域課題探究」授業参観
- 3 開催場所 吉城高校 会議室
- 4 参加者

会 長	柴田 駿一	吉城高校同窓会長
副会長	沖畑 康子	飛騨市教育長
委 員	川上 佳洋	宇宙まるごと創生塾飛騨アカデミー理事長
	渡邊 正憲	(株)飛騨ダイカスト代表取締役
	船坂 志乃	前 吉城高校育友会女性部長
	齋藤 憲一	飛騨古川青年会議所理事長
	竹林 千恵子	吉城高校育友会女性部長
学 校 側	野々山 伸一	校長
	中田 和美	教頭
	大乘坊 健	事務長
	小澤 耕	教務主任
	河野 和代	生徒指導主事
	井田 和実	進路指導主事
	桐谷 直嗣	特別活動部長
	鈴木 泰輔	キャリア推進部長
	野村 剛志	理数科主任

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 会長、副会長の選出について

全委員より承認が得られた。

#### (2) 「教育課程の編成」「学校経営計画」「組織編成」について

学校長より「教育課程の編成」「学校経営計画」「組織編成」を踏まえた令和4年度の学校経営全般について説明

意見1：スクール・ポリシーについて、コンパクトでわかりやすい説明だった。

地域と共に生徒がある。地域の方々からスクール・ポリシーについての理解を得るために、育友会や生徒に向けてもわかりやすく伝えるスタイルや、リーフレットの制作、ガイダンスの実施が必要なのではないか。吉城高校はYCK(吉城高校地域キラメキプロジェクト)も含めて地域課題探究が活発なので、より魅力的な高校にしてゆべきであり、地域の方々や保護者にもより学校を深く理解してほしい。資料では硬くてわかりにくい文言が多くなってしまふ。

回 答：まず、年度当初に「総合的な探究の時間」のオリエンテーションの時間で、スクール・ポリシーを生徒に説明している。また、ルーブリックを使用し、年度当初と年度末に行う自己評価を比較している。そして、わかりやすく生徒に伝えるために「伝える力」「見つける力」「解決する力」それぞれについて説明している。様々な情報を自分で選択して自分の言葉で表現できるか、問いを立てて上手に表現できるかだけでなく、周りの者を巻き込みながら解決に向かって行動できる力を育てたい。これらの思いをどのように生徒と教員で共有していくかが今の課題である。また、学校案内の表紙には載せているが、この3つの力をよりわかりやすい表現でPRできるようにしていきたい。

意見2：生徒から見て、この3つの力を地域課題探究の中で身につけて行くのは大事だが、生徒のもつ力、特性、能力、得意不得意などに差がある中で、様々な生徒に対し、どのように寄り添っていくのか。

回 答：目標は生徒それぞれあってよい。力は3年間を通して身につけるものなので、入学したばかりの生徒が1年後どう成長したか、3年間でどのように力をつけたかを測りたい。3つの力を一様にあてはめるのが大事なのではなく、活動を振り返りながら、自分が立てた目標にどれだけ近づけたかが大事である。地域の課題を解決するために地域課題探究学習はあるが、結果的に生徒が自分自身の課題に向き合うこともできている。

意見3：現1年生は入学志願者数が定員を超えたが、学校ではその要因についてどのように分析しているか。

回 答：普通科は、入学志願者数が定員を超えた。本校ではすべての受検生に面接を課しているが、その中で生徒たちが吉城高校の魅力として探究活動を挙げていた。キャリア推進部という分掌を立ち上げてこれまで取り組んできたことが、地域に浸透してきたのではないか。学習支援に小・中学校へ出向いたり、小学生対象のサイエンス教室を行ったりしているが、それに参加した小・中学生が吉城高校に入学してくれている。何年もかけて取り組んできたことの成結果が出ているのではないか。また、独自選抜では、サッカー部やバレーボール部の県大会出場など、こちらもようやく取組の成結果が出てきている。派手ではないが地道な積み重ねを続けたことで吉城高校の良さが理解されている、と感じている。また、地域に認められ、喜ばれる学校に近づいてきたのではないか。理数科については定員には満たなかったが、昨年度の入学者が19名だったのに対して今年度は10名増えて29名の入学者となった。まだまだ中学校に対して、理数科と普通科の違いなどが浸透していない部分もある。理数科でも文系にも対応した教育課程が用意されていることを今後もさらにPRしていきたい。

意見4：ぜひもっと外に出て学校の魅力を伝えてほしい。地域の方々や保護者も含め、誰にでもわかるように伝えていってほしい。「学校の中で理解されればそれでいい」という考えではなく、教育は地域ぐるみで取り組んでいくものであるので、地域や家庭に理解を得ながら取り組んで

いくことが大事である。

意見5：「学校経営計画」では、「達成度の判断基準あるいは評価」の欄に、アンケートは記載されているが、ループリックについての記載がないので、評価に含めてはどうか。

意見6：高校は様々な選択肢の中から選んで入学するので、生徒が当事者である。生徒自身が、その組織に入ってどう成長できるのか、というビジョンが描けるかどうかが大変だ。本校で3年間を過ごす中で、3年後のその先の夢をいかに描かせるかが、選ばれる学校組織になれるかの分岐点となる。先ほど会長が「もっとわかりやすく」と述べたが、実際に取り組むのは生徒である。生徒自身が今どの山に登るかを自ら考えること、つまり目標を決めて、それを達成することが大事。将来の夢を叶えるには努力が必要だが、私は高校生当時には描けていなかった。

意見7：2年後飛騨に大学が新設設置される。その大学は、今の社会で本当に必要とされているような、最も進んだ考えをもっており、高い水準の考えをもった入学生を求めている。せっかく通学に至便な地元に新設されるのだから、この大学で活躍できるような子どもたちに育ててほしい。今は大学設立事務局も準備で忙しいようだが、今後大学まで含めた進路選択を高大が連携して見据えていきたい。

質疑応答後、「教育課程の編成」「学校経営計画」「組織編成」について、全委員より承認が得られた。

## 6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会において、会長、副会長が選出され、「教育課程の編成に関する事項」「学校経営計画に関する事項」「学校の組織編成に関する事項」の3点について全委員より承認が得られた。また、協議会後には、学校設定科目である「地域課題探究」の授業を参観することを通して、御意見が得られ、概ね好評であった。第2回の協議会では、「総合的な探究の時間」の授業を参観する予定である。